2020 年度

財　産　目　録

（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）

◆総括表

学校法人　　関東学園

財　産　目　録

（総括表）

学校法人　関東学園

2021/3/31

Ⅰ資産総額	18,980,203,120 円
内　基本財産	17,071,139,668 円
運用財産	1,909,063,452 円
Ⅱ負債総額	1,045,827,958 円
Ⅲ正味財産	17,934,375,162 円

科　　目	年度末・価格　（円）	
一　資産額		
（一）基本財産		17,071,139,668
有形固定資産		11,137,703,576
（1）土地	346,760.02㎡	6,195,136,284
校地他		
太田	148,751.64㎡	1,870,864,238
館林	185,195.81㎡	4,231,905,662
忍野	12,812.57㎡	92,366,384
（2）建物	49,530.85㎡	2,053,926,413
校舎他		
太田	22,823.87㎡	1,392,510,034
館林	26,706.98㎡	661,416,379
（3）構築物		66,900,819
（4）図書	415,149冊	2,055,108,998
（5）教育研究用機器備品	10,177点	63,052,286
（6）管理用機器備品	522点	703,578,770
（7）車両		6
特定資産		5,443,998,784
（1）第2号基本金引当特定資産		3,810,760,792
（2）第3号基本金引当特定資産		1,633,237,992
その他の固定資産		489,437,308
（1）電話加入権		4,932,784
（2）ソフトウェア		18,227,448
（3）水利権		443,120,768
（4）長期貸付金		22,706,308
（5）差入保証金		450,000
（二）運用財産		1,909,063,452
（1）現金預金		1,829,741,602
（2）未収入金		72,660,469
（3）前払金		6,661,381
資　産　合　計		18,980,203,120

二　負債額		
固定負債		803,486,014
長期未払金		33,900,432
退職給与引当金		769,585,582
流動負債		242,341,944
（1）前受金		116,369,500
（2）預り金		61,543,738
（3）未払金		64,428,706
負債合計		1,045,827,958
正味財産（資産総額－負債総額）		17,934,375,162

（注）資産の評価は取得価格基準による。

2020 年度

決　算

（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）

◆資金収支計算書

◆活動区分資金収支計算書

◆事業活動収支計算書

◆貸借対照表

学校法人　　関東学園

貸借対照表

令和 3年 3月31日

（単位　円）

資産の部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定資産	17,071,139,668	17,297,062,464	△ 225,922,796
有形固定資産	11,137,703,576	11,327,714,913	△ 190,011,337
土地	6,195,136,284	6,195,136,284	0
建物	2,053,926,413	2,210,842,960	△ 156,916,547
構築物	66,900,819	86,662,012	△ 19,761,193
教育研究用機器備品	63,052,286	331,002,604	△ 267,950,318
管理用機器備品	703,578,770	451,444,180	252,134,590
図書	2,055,108,998	2,052,626,863	2,482,135
車両	6	10	△ 4
特定資産	5,443,998,784	5,443,998,784	0
第２号基本金引当特定資産	3,810,760,792	3,810,760,792	0
第３号基本金引当特定資産	1,633,237,992	1,633,237,992	0
その他の固定資産	489,437,308	525,348,767	△ 35,911,459
電話加入権	4,932,784	4,932,784	0
ソフトウェア	18,227,448	25,131,552	△ 6,904,104
水利権	443,120,768	470,773,291	△ 27,652,523
長期貸付金	22,706,308	24,061,140	△ 1,354,832
差入保証金	450,000	450,000	0
流動資産	1,909,063,452	1,494,738,226	414,325,226
現金預金	1,829,741,602	1,377,625,214	452,116,388
未収入金	72,660,469	110,707,554	△ 38,047,085
前払金	6,661,381	6,258,445	402,936
立替金	0	147,013	△ 147,013
資産の部合計	18,980,203,120	18,791,800,690	188,402,430

負債の部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
固定負債	803,486,014	823,230,405	△ 19,744,391
長期未払金	33,900,432	54,175,296	△ 20,274,864
退職給与引当金	769,585,582	769,055,109	530,473
流動負債	242,341,944	290,594,373	△ 48,252,429
前受金	116,369,500	139,403,000	△ 23,033,500
預り金	61,543,738	82,366,269	△ 20,822,531
未払金	64,428,706	68,825,104	△ 4,396,398
負債の部合計	1,045,827,958	1,113,824,778	△ 67,996,820
純資産の部			
科　　目	本年度末	前年度末	増　　減
基本金	26,894,545,972	26,890,371,930	4,174,042
第１号基本金	21,301,547,188	21,297,373,146	4,174,042
第２号基本金	3,810,760,792	3,810,760,792	0
第３号基本金	1,633,237,992	1,633,237,992	0
第４号基本金	149,000,000	149,000,000	0
繰越収支差額	△ 8,960,170,810	△ 9,212,396,018	252,225,208
翌年度繰越収支差額	△ 8,960,170,810	△ 9,212,396,018	252,225,208
純資産の部合計	17,934,375,162	17,677,975,912	256,399,250
負債及び純資産の部合計	18,980,203,120	18,791,800,690	188,402,430

注記 1、重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

徴収不能引当金

・・・未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込額を計上している。

退職給与引当金

・・・退職給与引当金の額の算定基準は、次のとおりである。
大学等の教職員に係る退職給与引当金については、期末要支給額
433,845,400円の100%を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の
累積額と交付金の累積額との繰り入れ調整額を加減した金額を計上している。
高校の教職員に係る退職給与引当金については、期末要支給額 283,665,700円
から私学振興会よりの交付金相当額を控除した金額の100%を計上している。
尚　年齢等の関係により私立大学退職財団、私学振興会に未加入の教職員の
退職給与引当金についても期末要支給額 3,466,800円の100%を計上している。
役員については、役員退職金支給規定に基づき、期末退職慰労金等支給額
79,577,300円を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

有価証券の評価基準及び評価方法

・・・施設拡充引当特定資産等のうち、5,300,200,000円が有価証券資産であり、
移動平均法に基づく原価法である。

2、重要な会計方針の変更等

該当事項なし

3、減価償却額の累計額の合計額

9,753,954,445円

4、徴収不能引当金の合計額

0円

5、担保に供されている資産の種類および額

0円

6、翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額

56,391,833円

7、当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を有していない場合のその旨と対策
第4号基本金に該当する資金を有しており該当しない。

8、その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項
(1) 有価証券の時価情報

種　類	勘定科目	当年度（令和3年3月31日）		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	施設拡充引当特定資産 有価証券（投資信託） FDｸﾞﾛｰﾊﾞﾙBF（分配型） FDｸﾞﾛｰﾊﾞﾙBF（分配型）	 3,800,200,000円 1,500,000,000円	 3,732,034,073円 1,480,950,000円	 △68,165,927円 △19,050,000円
	合　計	5,300,200,000円	5,212,984,073円	△87,215,927円
（うち満期保有目的の債券）		(0円)	(0円)	(0円)
時価のない有価証券	（株）農のちから （株）百の姓	0円 0円		
	合　計	0円		

時価はﾌｨﾃﾞﾘﾃｲ証券(株)の評価金額による。

(2) 通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ﾌｧｲﾅﾝｽﾘｰｽ取引

①平成21年4月1日以降に開始したﾘｰｽ取引

リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	18,010,278円	8,324,920円
管理用機器備品	2,589,712円	449,950円

(3) 関連当事者との取引
該当事項なし

資　金　収　支　計　算　書

令和 2年 4月 1日 から
令和 3年 3月31日 まで

（単位　円）

収　入　の　部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
学生生徒等納付金収入	900,308,000	916,756,900	△ 16,448,900
授業料収入	626,088,000	633,390,000	△ 7,302,000
入学金収入	80,030,000	85,406,000	△ 5,376,000
実験実習料収入	22,200,000	23,107,500	△ 907,500
施設設備資金収入	160,890,000	163,424,000	△ 2,534,000
その他収入	11,100,000	11,429,400	△ 329,400
手数料収入	36,200,000	25,026,322	11,173,678
入学検定料収入	32,100,000	21,275,800	10,824,200
試験料収入	100,000	27,000	73,000
証明手数料収入	1,000,000	763,600	236,400
大学入試センター手数料収入	3,000,000	2,959,922	40,078
寄付金収入	0	26,565,859	△ 26,565,859
一般寄付金収入	0	26,565,859	△ 26,565,859
補助金収入	367,500,000	364,579,878	2,920,122
国庫補助金収入	67,500,000	84,917,800	△ 17,417,800
地方公共団体補助金収入	300,000,000	279,662,078	20,337,922
資産売却収入	0	277,280	△ 277,280
設備売却収入	0	277,280	△ 277,280
付随事業・収益事業収入	17,700,000	2,232,305	15,467,695
補助活動収入	15,700,000	2,232,305	13,467,695
校外教育活動収入	2,000,000	0	2,000,000
受取利息・配当金収入	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
第３号基本金引当特定資産運用収入	174,000,000	174,016,075	△ 16,075
その他の受取利息・配当金収入	438,000,000	438,636,301	△ 636,301
雑収入	61,025,000	63,869,194	△ 2,844,194
施設設備利用料収入	1,650,000	806,139	843,861
私立大学退職金財団交付金収入	56,225,000	58,667,000	△ 2,442,000
県私学振興会交付金収入	0	539,865	△ 539,865
その他雑収入	3,150,000	3,856,190	△ 706,190
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	159,692,000	116,369,500	43,322,500
授業料前受金収入	45,084,000	40,533,000	4,551,000
入学金前受金収入	78,505,000	48,593,000	29,912,000
実験実習料前受金収入	7,748,000	4,920,000	2,828,000
施設設備資金前受金収入	19,481,000	15,498,500	3,982,500
その他前受金収入	3,874,000	2,460,000	1,414,000
預り金前受収入	5,000,000	4,365,000	635,000
その他の収入	440,707,554	387,379,732	53,327,822
前期末未収入金収入	110,707,554	110,707,554	0
立替金回収収入	0	293,961	△ 293,961
仮払金回収収入	0	1,569,096	△ 1,569,096
貸付金回収収入	0	1,354,832	△ 1,354,832
預り金受入収入	330,000,000	273,454,289	56,545,711
資金収入調整勘定	△ 195,628,000	△ 215,878,781	20,250,781
期末未収入金	△ 56,225,000	△ 76,475,781	20,250,781
前期末前受金	△ 139,403,000	△ 139,403,000	0
前年度繰越支払資金	1,377,625,214	1,377,625,214	

（単位　円）

収　入　の　部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
収　入　の　部　合　計	3,777,129,768	3,677,455,779	99,673,989

（単位　円）

支　出　の　部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
人件費支出	**857,136,000**	**832,107,832**	**25,028,168**
教員人件費支出	557,558,000	540,620,886	16,937,114
職員人件費支出	196,970,000	183,745,831	13,224,169
役員報酬支出	31,000,000	30,861,115	138,885
退職金支出	71,608,000	76,880,000	△ 5,272,000
教育研究経費支出	**598,693,000**	**463,750,381**	**134,942,619**
消耗品費支出	17,315,000	14,859,037	2,455,963
光熱水費支出	55,566,000	39,986,002	15,579,998
旅費交通費支出	15,369,000	2,175,467	13,193,533
印刷製本費支出	6,886,000	6,111,463	774,537
通信運搬費支出	10,359,000	10,854,007	△ 495,007
新聞雑誌費支出	6,713,000	5,189,096	1,523,904
諸会費支出	6,545,000	3,294,960	3,250,040
福利費支出	3,996,000	3,088,685	907,315
食料費支出	865,000	1,583,331	△ 718,331
支払報酬・手数料支出	37,222,000	28,004,067	9,217,933
公租公課支出	554,000	382,194	171,806
保守料支出	41,483,000	28,048,177	13,434,823
委託費支出	217,344,000	174,510,507	42,833,493
賃借料支出	30,277,000	15,315,561	14,961,439
修繕費支出	30,890,000	10,506,606	20,383,394
損害保険料支出	5,251,000	4,215,591	1,035,409
奨学費支出	112,058,000	115,625,630	△ 3,567,630
管理経費支出	**300,120,000**	**216,413,292**	**83,706,708**
消耗品費支出	7,226,000	4,970,638	2,255,362
光熱水費支出	13,950,000	13,109,900	840,100
旅費交通費支出	11,459,000	2,701,945	8,757,055
印刷製本費支出	14,116,000	4,190,196	9,925,804
通信運搬費支出	13,900,000	14,938,408	△ 1,038,408
新聞雑誌費支出	1,001,000	894,361	106,639
諸会費支出	3,592,000	3,166,390	425,610
福利費支出	1,230,000	891,605	338,395
食料費支出	5,229,000	263,333	4,965,667
支払報酬・手数料支出	34,503,000	24,481,197	10,021,803
公租公課支出	3,374,000	3,512,710	△ 138,710
保守料支出	12,622,000	13,717,751	△ 1,095,751
委託費支出	132,529,000	108,926,111	23,602,889
賃借料支出	11,778,000	7,590,539	4,187,461
修繕費支出	8,859,000	2,959,317	5,899,683
損害保険料支出	3,634,000	3,567,159	66,841
私立大学等補助金返還金支出	0	26,000	△ 26,000
広報費支出	12,358,000	5,475,200	6,882,800
渉外費支出	2,960,000	654,022	2,305,978
補助活動仕入支出	5,800,000	225,960	5,574,040
雑費支出	0	150,550	△ 150,550
借入金等利息支出	**0**	**0**	**0**
借入金等返済支出	**0**	**0**	**0**
施設関係支出	**7,500,000**	**2,717,000**	**4,783,000**
建物支出	7,500,000	2,552,000	4,948,000
構築物支出	0	165,000	△ 165,000
設備関係支出	**12,545,000**	**11,658,610**	**886,390**
教育研究用機器備品支出	7,865,000	7,774,030	90,970
管理用機器備品支出	1,400,000	1,419,880	△ 19,880
図書支出	3,280,000	2,464,700	815,300
資産運用支出	**0**	**0**	**0**

（単位　円）

支　出　の　部			
科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
その他の支出	425,735,000	370,606,965	55,128,035
前期末未払金支払支出	86,501,000	68,825,104	17,675,896
預り金支払支出	330,000,000	294,276,820	35,723,180
立替金支払支出	0	146,948	△ 146,948
前払金支払支出	9,234,000	5,788,997	3,445,003
仮払金支払支出	0	1,569,096	△ 1,569,096
〔予備費〕	40,000,000		40,000,000
資金支出調整勘定	△ 75,033,025	△ 49,539,903	△ 25,493,122
期末未払金	△ 70,000,000	△ 44,153,842	△ 25,846,158
前期末前払金	△ 5,033,025	△ 5,386,061	353,036
翌年度繰越支払資金	1,610,433,793	1,829,741,602	△ 219,307,809
支　出　の　部　合　計	3,777,129,768	3,677,455,779	99,673,989

活動区分資金収支計算書

令和 2年 4月 1日 から
令和 3年 3月31日 まで

000000:全学総括　　（単位　円）

		科目	金額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	916,756,900
		手数料収入	25,026,322
		一般寄付金収入	26,565,859
		経常費等補助金収入	364,579,878
		付随事業収入	2,232,305
		雑収入	63,869,194
		教育活動資金収入計	1,399,030,458
	支出	人件費支出	832,107,832
		教育研究経費支出	463,750,381
		管理経費支出	216,413,292
		教育活動資金支出計	1,512,271,505
	差引		△ 113,241,047
	調整勘定等		△ 19,487,814
	教育活動資金収支差額		△ 132,728,861
設備等活動による資金収支		科目	金額
	収入	施設設備売却収入	277,280
		施設整備等活動資金収入計	277,280
	支出	施設関係支出	2,717,000
		設備関係支出	11,658,610
		施設整備等活動資金支出計	14,375,610
	差引		△ 14,098,330
	調整勘定等		5,614,201
	施設整備等活動資金収支差額		△ 8,484,129
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）			△ 141,212,990
その他の活動による資金収支		科目	金額
	収入	立替金回収収入	293,961
		仮払金回収収入	1,569,096
		貸付金回収収入	1,354,832
		預り金受入収入	273,454,289
		小計	276,672,178
		受取利息・配当金収入	612,652,376
		その他の活動資金収入計	889,324,554
	支出	預り金支払支出	294,276,820
		立替金支払支出	146,948
		仮払金支払支出	1,569,096
		小計	295,992,864
		その他の活動資金支出計	295,992,864
	差引		593,331,690
	調整勘定等		△ 2,312
	その他の活動資金収支差額		593,329,378
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）			452,116,388
前年度繰越支払資金			1,377,625,214
翌年度繰越支払資金			1,829,741,602

活動区分ごとの調整勘定等の計算過程は以下のとおり。　（単位　円）

項目	資金収支計算書計上額	教育活動による資金収支	施設整備等活動による資金収支	その他の活動による資金収支
授業料前受金収入	40,533,000	40,533,000	0	0
入学金前受金収入	48,593,000	48,593,000	0	0
実験実習料前受金収入	4,920,000	4,920,000	0	0
施設設備資金前受金収入	15,498,500	15,498,500	0	0
その他前受金収入	2,460,000	2,460,000	0	0
預り金前受収入	4,365,000	4,365,000	0	0
教育活動・前期未収入金収入	84,146,554	84,146,554	0	0
施設設備・前期未収入金収入	26,561,000	0	26,561,000	0
教育活動・期末未収入金	△ 76,473,469	△ 76,473,469	0	0
その他・期末未収入金	△ 2,312	0	0	△ 2,312
前期末前受金	△ 139,403,000	△ 139,403,000	0	0
収入計	11,198,273	△ 15,360,415	26,561,000	△ 2,312
教育活動・前期末未払金支払支出	45,053,056	45,053,056	0	0
施設設備・前期末未払金支払支出	23,772,048	0	23,772,048	0
教育活動・前払金支払支出	5,788,997	5,788,997	0	0
教育活動・期末未払金（FB振込）	△ 20,160,229	△ 20,160,229	0	0
施設設備・期末未払金（FB振込）	△ 16,289	0	△ 16,289	0
教育活動・期末未払金（教職員立替経	△ 160,643	△ 160,643	0	0
教育活動・期末未払金（その他）	△ 21,007,721	△ 21,007,721	0	0
施設設備・期末未払金（その他）	△ 2,808,960	0	△ 2,808,960	0
教育活動・前期末前払金	△ 5,386,061	△ 5,386,061	0	0
支出計	25,074,198	4,127,399	20,946,799	0
収入計－支出計	△ 13,875,925	△ 19,487,814	5,614,201	△ 2,312

事業活動収支計算書

令和 2年 4月 1日 から
令和 3年 3月31日 まで

（単位　円）

	科目	予算	決算	差異
事業活動収入の部	**学生生徒等納付金**	900,308,000	916,756,900	△ 16,448,900
	授業料	626,088,000	633,390,000	△ 7,302,000
	入学金	80,030,000	85,406,000	△ 5,376,000
	実験実習料	22,200,000	23,107,500	△ 907,500
	施設設備資金	160,890,000	163,424,000	△ 2,534,000
	その他収入	11,100,000	11,429,400	△ 329,400
	手数料	36,200,000	25,026,322	11,173,678
	入学検定料	32,100,000	21,275,800	10,824,200
	試験料	100,000	27,000	73,000
	証明手数料	1,000,000	763,600	236,400
	大学入試センター手数料	3,000,000	2,959,922	40,078
	寄付金	0	26,847,294	△ 26,847,294
	一般寄付金	0	26,565,859	△ 26,565,859
	現物寄付	0	281,435	△ 281,435
	経常費等補助金	367,500,000	364,579,878	2,920,122
	国庫補助金	67,500,000	84,917,800	△ 17,417,800
	地方公共団体補助金	300,000,000	279,662,078	20,337,922
	付随事業収入	17,700,000	2,232,305	15,467,695
	補助活動収入	15,700,000	2,232,305	13,467,695
	校外教育活動収入	2,000,000	0	2,000,000
	雑収入	61,025,000	63,869,194	△ 2,844,194
	施設設備利用料	1,650,000	806,139	843,861
	私立大学退職金財団交付金	56,225,000	58,667,000	△ 2,442,000
	県私学振興会交付金	0	539,865	△ 539,865
	その他雑収入	3,150,000	3,856,190	△ 706,190
	教育活動収入計	1,382,733,000	1,399,311,893	△ 16,578,893
	科目	予算	決算	差異
教育活動収支 事業活動支	**人件費**	840,221,000	832,638,305	7,582,695
	教員人件費	557,558,000	540,620,886	16,937,114
	職員人件費	196,970,000	183,745,831	13,224,169
	役員報酬	31,000,000	30,861,115	138,885
	退職金	4,640,000	6,826,800	△ 2,186,800
	退職給与引当金繰入額	50,053,000	70,583,673	△ 20,530,673
	教育研究経費	789,193,000	643,613,066	145,579,934
	消耗品費	17,315,000	15,123,037	2,191,963
	光熱水費	55,566,000	39,986,002	15,579,998
	旅費交通費	15,369,000	2,175,467	13,193,533
	印刷製本費	6,886,000	6,111,463	774,537
	通信運搬費	10,359,000	10,854,007	△ 495,007
	新聞雑誌費	6,713,000	5,189,096	1,523,904
	諸会費	6,545,000	3,294,960	3,250,040
	福利費	3,996,000	3,088,685	907,315
	食料費	865,000	1,583,331	△ 718,331
	支払報酬・手数料	37,222,000	28,004,067	9,217,933
	公租公課	554,000	382,194	171,806
	保守料	41,483,000	28,048,177	13,434,823
	委託費	217,344,000	174,510,507	42,833,493
	賃借料	30,277,000	15,315,561	14,961,439
	修繕費	30,890,000	10,506,606	20,383,394
	損害保険料	5,251,000	4,215,591	1,035,409
	奨学費	112,058,000	115,625,630	△ 3,567,630
	減価償却額	190,500,000	179,598,685	10,901,315
	管理経費	365,120,000	275,775,607	89,344,393

（単位　円）

		科　目	予　算	決　算	差　異
	出の部	消耗品費	7,226,000	4,970,638	2,255,362
		光熱水費	13,950,000	13,109,900	840,100
		旅費交通費	11,459,000	2,701,945	8,757,055
		印刷製本費	14,116,000	4,190,196	9,925,804
		通信運搬費	13,900,000	14,938,408	△ 1,038,408
		新聞雑誌費	1,001,000	894,361	106,639
		諸会費	3,592,000	3,166,390	425,610
		福利費	1,230,000	891,605	338,395
		食料費	5,229,000	263,333	4,965,667
		支払報酬・手数料	34,503,000	24,481,197	10,021,803
		公租公課	3,374,000	3,512,710	△ 138,710
		保守料	12,622,000	13,717,751	△ 1,095,751
		委託費	132,529,000	108,926,111	23,602,889
		賃借料	11,778,000	7,590,539	4,187,461
		修繕費	8,859,000	2,959,317	5,899,683
		損害保険料	3,634,000	3,567,159	66,841
		私立大学等補助金返還金	0	26,000	△ 26,000
		広報費	12,358,000	5,475,200	6,882,800
		渉外費	2,960,000	654,022	2,305,978
		補助活動仕入原価	5,800,000	225,960	5,574,040
		減価償却額	65,000,000	59,362,315	5,637,685
		雑費	0	150,550	△ 150,550
		徴収不能額等	1,000,000	3,815,312	△ 2,815,312
		徴収不能額	1,000,000	3,815,312	△ 2,815,312
		教育活動支出計	1,995,534,000	1,755,842,290	239,691,710
		教育活動収支差額	△ 612,801,000	△ 356,530,397	△ 256,270,603
教育活動外収支	事業活動収入の部	科　目	予　算	決　算	差　異
		受取利息・配当金	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
		第３号基本金引当特定資産運用収入	174,000,000	174,016,075	△ 16,075
		その他の受取利息・配当金	438,000,000	438,636,301	△ 636,301
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
	事業活動支出の部	科　目	予　算	決　算	差　異
		借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
		経常収支差額	△ 801,000	256,121,979	△ 256,922,979
特別収支	事業活動収入の部	科　目	予　算	決　算	差　異
		資産売却差額	0	277,280	△ 277,280
		車両売却差額	0	277,280	△ 277,280
		その他の特別収入	0	0	0
		特別収入計	0	277,280	△ 277,280
	事業活動支出の部	科　目	予　算	決　算	差　異
		資産処分差額	0	9	△ 9
		機器備品処分差額	0	5	△ 5
		車両処分差額	0	4	△ 4
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	9	△ 9

（単位　円）

科　　目	予　　算	決　　算	差　　異
特別収支差額	0	277,271	△ 277,271
［予備費］	40,000,000		40,000,000
基本金組入前当年度収支差額	△ 40,801,000	256,399,250	△ 297,200,250
基本金組入額合計	△ 30,000,000	△ 4,174,042	△ 25,825,958
当年度収支差額	△ 70,801,000	252,225,208	△ 323,026,208
前年度繰越収支差額	△ 9,212,396,000	△ 9,212,396,018	18
翌年度繰越収支差額	△ 9,283,197,000	△ 8,960,170,810	△ 323,026,190

（参考）

事業活動収入計	1,994,733,000	2,012,241,549	△ 17,508,549
事業活動支出計	2,035,534,000	1,755,842,299	279,691,701

2020 年度

事　業　報　告　書

（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）

学校法人　　関東学園

目　　次

ページ

Ⅰ．法人の概要

1.　基本情報　1
2.　建学の精神　1
3.　学校法人の沿革　1
4.　設置する学校・学部・学科等　2
5.　学校・学部・学科等の学生数の状況　2
6.　収容定員充足率　2
7.　役員の概要　3
8.　評議員の概要　3
9.　教職員の概要　4
10.　その他　4

Ⅱ．事業の概要

はじめに　5
2020年度に計画した事業の実施状況　5

1.　主な教育・研究の概要　6
2.　中期的な計画（教学・人事・施設・財務）及び事業計画の進捗・達成状況
（1）大学　8
（2）高校　11
（3）人事　12
（4）施設　13
（5）財務　13

Ⅲ．財務の概要

1.　決算の概要
（1）貸借対照表関係　14
（2）資金収支計算書関係　17
（3）事業活動収支計算書関係　22
2.　その他　25
3.　経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策　26

Ⅰ．法人の概要

１．基本情報

①法人の名称：学校法人関東学園

②主たる事務所

住所：〒374-8555 群馬県館林市大谷町 625 番地

電話番号：0276-74-1211(代表)

FAX 番号：0276-74-1214

ホームページアドレス：http://www.kanto-gakuen.ac.jp/

２．建学の精神

当学園は、大正 13 年(1924 年)に松平濱子により、創設され、以来「敬和、温順、質実」を建学の精神として受け継ぎながら、自主創造の気風の養成に努め、英知に富み、社会に寄与する人材を育てる「学徳一体の人間教育」を行っております。

３．学校法人の沿革

・明治 14 年(1881 年)　創設者・松平濱子、群馬県佐波郡で誕生。

・大正 13 年(1924 年)　関東高等女学校開設。

・昭和 21 年(1946 年)　関東女子専門学校開設。

・昭和 25 年(1950 年)　関東短期大学開設。

・昭和 33 年(1958 年)　関東学園高等学校開設。

・昭和 51 年(1976 年)　関東学園大学開設。

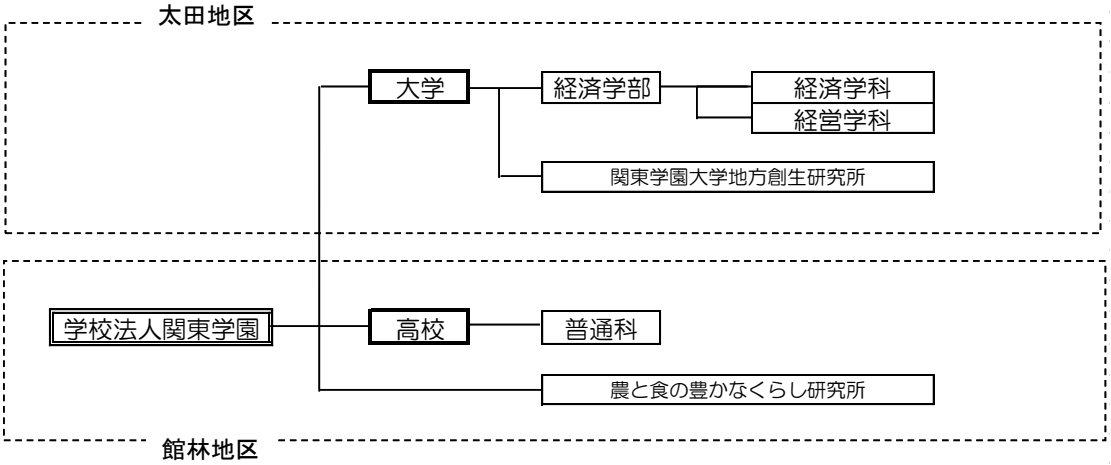
・昭和 57 年(1982 年)　関東学園大学附属高等学校に改称。

・令和 2 年（2020 年）　関東短期大学廃止。

４．設置する学校・学部・学科等

太田キャンパスに大学を、館林キャンパスに高校を設置しております。

それぞれの学部・学科等構成は以下のとおりです。



５．学校・学部・学科等の学生数の状況

（2020年5月1日現在）（単位：人）

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
関東学園大学	経済学部	190	166	760	571
関東学園大学附属高等学校	普通科	240	212	720	630

６．収容定員充足率

（毎年度5月1日現在）（単位：%）

学校名	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
関東学園大学	59.1	64.6	76.4	75.8	75.1
関東学園大学附属高等学校	84.7	87.1	88.5	88.9	87.5

７．役員の概要

（2020年5月1日現在）
（規程による定数：理事7名、監事2名）

区分	氏名	就任年月日	常勤・非常勤の別	主な現職等
理事長	松平　正久	1990年11月15日	常勤	関東学園長
理事	齋藤　大二郎	2018年4月2日	常勤	関東学園大学学長
理事	吉田　明稔	2019年4月3日	常勤	関東学園大学附属高等学校校長
理事	渡辺　敏正	2009年4月1日	非常勤	
理事	木村　たか子	2015年2月26日	非常勤	
理事	片山　憲之介	2019年4月1日	非常勤	
理事	Martin Helmstein	2019年4月1日	非常勤	
監事	平賀　正治	2005年5月12日	非常勤	
監事	川内　克忠	2019年4月1日	非常勤	

８．評議員の概要

（2020年5月1日現在）
（規程による定数：15名以上19名以下）

区分	氏名	就任年月日	主な現職等
理事長	松平　正久	1989年10月25日	関東学園長
評議員	荻原　榮一	1995年10月29日	
評議員	長谷川　清	1996年10月2日	
評議員	小島　友次	2000年4月1日	
評議員	渡辺　敏正	2009年3月17日	
評議員	和田　春雄	2011年2月21日	
評議員	木村　たか子	2013年4月1日	
評議員	菅野　光千子	2016年2月18日	
評議員	吉田　明稔	2018年4月1日	関東学園大学附属高等学校校長
評議員	齋藤　大二郎	2018年4月2日	関東学園大学学長
評議員	片山　憲之介	2019年4月3日	
評議員	松平　順一	2019年4月3日	
評議員	鈴木　信尊	2019年4月23日	関東学園大学附属高等学校教頭
評議員	Martin Helmstein	2019年4月23日	

９．教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数

（2020年5月1日現在)(単位：人）

区分		大学	高校	法人	計
教員	本務	31	42	0	73
	兼務	24	7	0	31
職員	本務	10	5	14	29
	兼務	3	1	2	6

（注）派遣職員は、含まない。

教員平均年齢

（2020年5月1日現在）

区分		専任				
		専任平均	人数	教授	准教授	講師
大学	学部平均	47.8	27	55.6	46.9	32.4

(注)特任教授は構成比率には含まない。

区分		専任			
		専任平均	人数	教諭	講師
高校	普通科	37.3	39	38.7	25.5

(注)再任用教諭は構成比率には含まない。

職員平均年齢

（2020年5月1日現在）

区分	専任	
	専任平均	人数
全体平均	40.0	27
大学	44.4	9
高校	49.8	4
事務局	34.4	14

(注)再任用職員は構成比率には含まない。

10．その他

系列校の状況

該当なし

Ⅱ．事業の概要

はじめに

学園は、「敬和」「温順」「質実」という建学の精神に基づき、知識を養うと同時に、人間形成を尊重する、「学徳一体となった人間教育」の実現に努めています。

その実現のために、私立学校を取り巻く環境が少子化や経済情勢等の影響を受けるなかで、地域から評価され、持続できる学校となることが重要です。

2020 年度も学生・生徒の思いを大切にし、「充実した学校生活」「希望する進路の実現」「成長した自分を感じての卒業」、そのための教育力の向上や学生・生徒のサポートを教職員一人ひとりが心掛け、地域から選ばれる学校づくりを行ってきました。

2020 年度に計画した事業の実施状況

コロナ禍において 4 月から全学的に休業とし、連休明けから大学・高校ともにオンライン教育を行いました。

その後は、感染症防止対策に徹底して取り組み、学生・生徒が安心・安全に学べる環境のもと、対面による教育を一部開始し、段階的に拡大しました。

（1）地域から選ばれる学校づくり

①学生・生徒が希望する進路の実現を図りました。

②教員の教育力の向上、教育の質の向上を図りました。

③授業評価による満足度の把握と満足度向上のための対策を実施しました。

④資格取得の指導やサポートを教職員が全力でフォローし、地域に貢献できる人材の育成に努めました。

⑤教職員によるきめ細かな指導やフォローにより、中途退学の防止を図りました。

⑥感染症防止対策を徹底した上で、地域社会への知的協力等地域社会との交流に取り組みました。

⑦在校生・保護者、受験生及び地域の皆様に、本学の学びへの理解を深めていただくため、ホームページにおいて学校からの情報発信の充実を図りました。

⑧学園全体の将来計画を検討するにあたり、必要な調査を開始しました。

⑨部活動や課外活動については、コロナ禍において当初は活動ができませんでしたが、その後、様々な制約のなかで安心・安全に配慮しながら取り組みました。

⑩オンライン教育の導入や活用にあたり、様々な支援を行いました。

（2）本学の特色ある教育や成果を前面に押し出した募集広報活動

１．主な教育・研究の概要

（1）大学

①「卒業の認定に関する方針」

本学では、以下のように「ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）」を定めている。

経済学科

下記のような知識・態度・技能を身に付け、所定の単位数を取得した者に学士(経済学)の学位を授与する。

1）教養教育を通じて、幅広い教養とコミュニケーションスキル、情報リテラシーなどの汎用的技能を身に付けていること

2）経済学の基本的な知識を修得し、自ら主体的・積極的に社会で生起する経済的課題を幅広い視点から発見し解決できる能力を身に付けていること

3）少人数のゼミナール教育やさまざまな活動を通じて、協業、リーダーシップ、論理的思考力、表現力などのコンピテンシー(社会対応力)及び国際的協調の態度を身に付けていること

4）経済学科に設置するコースのカリキュラムにおいて専門的知識を深め、キャリア教育で職業観を形成し、地域社会の現実的要請に応じることのできる実践力を身に付けていること

経営学科

下記のような知識・態度・技能を身に付け、所定の単位数を取得した者に学士(経営学)の学位を授与する。

1）教養教育を通じて、幅広い教養とコミュニケーションスキル、情報リテラシーなどの汎用的技能を身に付けていること

2）経営学の基本的な知識を修得し、自ら主体的・積極的に企業やその他の組織体の経営に関わる問題を幅広い視点から解決できるようなマネジメント能力を身に付けていること

3）少人数のゼミナール教育やさまざまな活動を通じて、協業、リーダーシップ、論理的思考力、表現力などのコンピテンシー(社会対応力)及び国際的協調の態度を身に付けていること

4）経営学科に設置するコースのカリキュラムにおいて専門的知識を深め、キャリア教育で職業観を形成し、地域社会の現実的要請に応じることのできる実践力を身に付けていること

②「教育課程の編成及び実施に関する方針」

本学の教育方針および人材養成の目的に基づき、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成している。

経済学科

1）本学の教育方針及び本学科のディプロマ・ポリシーを実現するために、基礎科

目、一般教育科目、専門教育科目を１年次より体系的に配置する。

2）幅広い視野と豊かな人間性を培うために、多様な一般教育科目を設置する。

3）社会人としての意識、態度や行動力を養い、コミュニケーションスキルや情報リテラシーを高めるための基礎科目、一般教育科目を設置する。また、社会人として活躍できる行動特性の獲得・向上を図るため、コンピテンシー育成プログラムを用意する。

4）経済学の基礎を広く学ぶために、理論、歴史、政策の三分野に概論的な専門教育科目を設置する。その上で、さらに専門性を高めるため、各コースの特徴に応じた専門教育科目を設置する。

5）ビジネスパーソンとして有用な知識・技能の修得に向けた専門教育科目と課外講座を設置する。

6）経済に関する問題発見・解決能力を、自主的・実践的・総合的に向上させるために、プロジェクト型研究を行う専門演習を設置する。

経営学科

1）本学の教育方針及び本学科のディプロマ･ポリシーを実現するために、基礎科目、一般教育科目、専門教育科目を１年次より体系的に配置する。

2）幅広い視野と豊かな人間性を培うために、多様な一般教育科目を設置する。

3）社会人としての意識、態度や行動力を養い、コミュニケーションスキルや情報リテラシーを高めるための基礎科目、一般教育科目を設置する。また、社会人として活躍できる行動特性の獲得・向上を図るため、コンピテンシー育成プログラムを用意する。

4）経営学と会計学の基礎を広く学ぶために、経営管理、マーケティング、簿記・会計の三分野に概論的な専門教育科目を設置する。その上で、さらに専門性を高めるため、各コースの特徴に応じた専門教育科目を設置する。

5）ビジネスパーソンとして有用な知識・技能の修得に向けた専門教育科目と課外講座を設置する。

6）経営に関する問題発見・解決能力を、自主的・実践的・総合的に向上させるために、プロジェクト型研究を行う専門演習を設置する。

③「入学者の受入れに関する方針」

本学の入学者選抜においては、多様な試験方法を採用し、学力だけでなく、さまざまな問題を発見し解決策を探求する強い意欲や資質・能力を持った学生を広く受け入れることを、選抜の基本方針としています。

「関東学園大学の人材養成の目的」で述べた人材養成の目的を実現するために、下記のような意欲、資質・能力を備えた人を迎え入れたいと考えています。

1）本学の建学の精神と教育方針を受け入れ、勉学、スポーツ、地域との連携活動など多岐にわたる活動を通して、自己を開発し向上させる意欲をもっていること

2）高等学校において国語、数学、英語、社会などの科目を主に学んでくること
3）社会に関心を持ち、経済学・経営学を学ぶ意欲があり、将来、地域社会の第一線で活躍したいと希望していること
4）自ら主体的・積極的に学ぼうという意欲があること
5）多様な意見を尊重し、他の人と協力して学習や課外活動に取り組めること

２．中期的な計画（教学・人事・施設・財務）及び事業計画の進捗・達成状況

2019 年度末頃からの新型コロナウイルス感染症の拡大状況のもと、その対策のため、2020 年度は当初の計画にはなかった様々な対策や措置を講じ、学生および教職員の健康・生命を守りつつ、学生の学修機会を確保することに努めました。

2020 年度当初においては、入学式やオリエンテーション、フレッシュマン・キャンプ、部活動等の課外活動を中止し、また、オンラインでの授業実施の準備を進めました。オンラインでの授業実施準備にあたっては、学生ひとり一人のネットワーク環境についての電話での聞き取り調査を行うとともに、ネットワーク環境が十分ではない学生がオンライン授業を受講するために必要となる機器等の整備を進めました。

2020 年 5 月より、オンラインでの授業を段階的に開始し、先行して開始したセミナー・演習科目において、オンラインでの授業受講方法についての説明や、履修ガイダンス等を実施して、学生がオンラインでの学びにスムーズに参加できるよう支援しました。

2020 年 6 月からは、コロナ禍の状況を慎重に考慮した上で、セミナー・演習科目や語学系の科目等一部の授業については対面での授業実施を開始し、また、感染防止策についても徹底しました。

2020 年度の 6 月～7 月の前期期間については、おおむね 3 割の授業を対面で実施し、7 割の授業をオンラインで実施しました。また、後期期間の 10 月～12 月については、おおむね 8 割の授業を対面で実施し、2 割の授業をオンラインで実施、また、国内で感染者数が拡大する状況にあった 1 月～2 月については、全面的にオンライン授業を実施して対応しました。

（1）大学

①経済学・経営学の専門教育

専門教育の教育課程がより体系的なものとなるよう検討し、カリキュラム編成を行いました。また、そのために必要な教員の配置については、教員採用活動等を通じて適切なものとなるよう努めました。

ゼミ科目である演習Ⅰおよび演習Ⅱについては、より多くの学生が履修するよう履修率の目標を設定するとともに、経済学・経営学の専門知識を身につけるための内容を実施しました。2020 年度の演習科目は対面授業とオンラインでの授業を組み合わせて実施しましたが、そのような学習環境のもと、学生同士のディスカッションやグループワーク等が実践できるよう、授業運営の工夫に努めました。

カリキュラム・ツリーについては、経済・経営学科の主要な専門教育科目を対象として一部導入しました。

②教養教育・初年次教育

教養科目のバランスの取れた履修については、セミナー・演習科目担当教員が中心となって支援を実施しました。2020 年度は、コロナ禍への対応として、例年行っている対面でのオリエンテーションは実施しませんでした。そのため、新年度開始期に必要な履修登録等の手続きについては、ホームページにガイダンス資料や各種マニュアルを掲示し、必要書類等を学生の自宅へ郵送し、さらに、セミナー・演習科目担当教員が電話連絡等により学生ひとり一人と連絡を取り合い、履修登録を支援する対応を行いました。

2020 年度、多くの教養科目についてはオンラインを中心に実施し、また、実技系科目についても感染症対策を徹底した上での対面授業とオンライン授業を組み合わせて実施しました。

③コース制の展開

各コースのカリキュラムや教員配置については、必要な授業科目および担当教員の配置のための準備を行いました。

2020 年度は、コロナ禍への対応のため、各コース長のもと、セミナー・演習科目担当教員が中心となり、全ての学生の学びの支援を徹底して行いました。セミナー・演習科目については、対面授業とオンライン授業を組み合わせて実施する環境のもと、新入生については初年次教育、3・4 年次生については専門的・実践的な学びであるプロジェクト活動を実施しました。

④研究活動

研究活動における外部資金の獲得については、引き続き取り組んでいきます。今年度は 8 名の教員が科研費に採用されています。

外部資金の活用については、公的研究費に関する規定を順守しています。

⑤エクステンション（課外講座）

コロナ禍のもと、2020 年度のエクステンション（課外講座）は、オンラインを中心に開講しました。課外講座の開講にあたっては、学生が正課講義の合間に効率的に受講することができるよう配慮し、それぞれの学生が目標とする資格や試験のための学習を進めました。

⑥コンピテンシー教育の推進

今年度は新型コロナウイルス感染症の状況を配慮し、特に学外で地域の方々と積極的に関わるような活動を一部制限しながら、学内におけるセミナー・演習科目を通じてのコンピテンシー育成に取り組みました。コロナ禍にあっても、ディベート大会に

ついては、学生の実行委員による運営のもとオンラインを活用して実施しました。１・２年次学生の積極的な参加があり、盛況でした。

⑦アクティブ・ラーニング、フィールドワーク、課題解決型授業

フィールドワークについては、新型コロナウイルス感染症への対応を十分に配慮し、神流町（かんなまち）地域活性化活動（民泊事業の立ち上げ・地元特産品の商品開発・観光活性化）に取り組みました。活動においては、オンラインでのミーティングを最大限活用するとともに、神流町自治体との現地での活動については参加人数を制限する等して実施しました。

プロジェクト型授業では、ビジネスプランコンテスト「関東ビジネスデザイン発見＆発表会 2020」にエントリーし、関東大会まで出場して「優秀賞」を得ました。また、地元ＦＭ放送 2 社と協業し、番組を作り定期放送する活動も実施中です。

さらに、群馬県産業経済部地域企業支援課主催の「ぐんまの地酒ＰＲ動画コンテスト」にゼミ活動として取り組み、地元太田市の酒蔵を YouTube で公開し、コロナ禍の需要減に地酒の魅力を発信する活動を行いました。

フィールドワーク担当教員の育成については、経済学科若手教員を、フィールドワークを活用した教育の経験の為に配置しました。

⑧FD 活動の推進

コロナ禍のもとにあった 2020 年度は、全ての教員がオンラインによる授業運営を経験しました。今後も、オンラインで授業を実施する状況が続くであろうことをふまえ、今年度はオンライン授業の運営手法をテーマとした FD 研究会を開催し、教員相互にオンラインでの授業運営のスキル向上を図りました。研究会では、各教員が実際にオンラインで実施されている授業を参観し、その内容について教員同士によるディスカッションを行い、オンライン授業の内容の改善に努めました。

また、担当教員以外の第三者によるシラバスチェックを実施して、シラバスの適正さを確保するとともに、教育内容・方法の改善を図りました。

⑨キャリア教育と就職活動支援

コロナ禍のもと、企業の採用活動は大きく変化しており、就職活動支援においては特にオンライン化への対策、留学生の就職難への対策の重要性が高まっています。そのため、従来の就職支援イベントに加えて「スタートアップガイダンス（テーマはコロナ禍の就職活動を進めるための心構え）」、「留学生向け就職活動ガイダンス（テーマは留学生向けのわかりやすい就活ガイダンス）」等の新規ガイダンスをオンラインで開催しました。また、自宅でオンライン面接に対応できない学生向けに学内面接室を設置しました。以上のような取り組みの成果もあり、コロナ禍により雇用情勢が厳しくなる中で、就職実績については従来と同様な水準となりました。

今年度は、3 年次後期の課外講座を「キャリア実践Ⅱ」という正課科目に移行し、履修学生数の増加を図りました。

⑩学生生活支援

コロナ禍のもとでの今年度、学生生活は大きな変化を強いられました。それにともない、オンラインでの学びへの戸惑い、直接友人と会えないことによる交友関係についての悩み、経済的に困難な状況に陥るといった事態に多くの学生が直面する可能性が高いことをふまえ、ひとり一人の学生にきめ細かな支援を行うことに努めました。セミナー・演習科目担当教員は、学生の様子に常に注意を払い、学生委員会や関連する部署と連携することで支援を実施しました。

クラブ・同好会などの活動については、2020 年度当初より 7 月までは、活動を中止しました。その後 8 月以降は、新型コロナウイルス感染症の状況を慎重に考慮した上で、活動を部分的に再開しました。活動の再開にあたっては、参加人数や活動時間の制限、マスクの着用、消毒作業等の対策を徹底しました。コロナ禍のもとで、クラブ・同好会の活動は大きく制限されましたが、学生のクラブ・同好会への加入率が向上したり、新たに 2 つの同好会が設立されたりするなどの活性化も見られました。

⑪募集・広報活動

オープンキャンパスについては、感染状況をふまえて適切な時期に来場型のオープンキャンパスを開催するとともに、オンラインで参加可能なオープンキャンパスもあわせて開催しました。オープンキャンパスでは、生徒・保護者に対して、本学の学びの内容を紹介するとともに、特にコロナ禍のもとでの本学の授業実施の状況や学生生活の様子等について丁寧に説明することに努めました。

誰もがインターネットで情報を得る時代であるので、ホームページを全面的に刷新するとともに、動画を 8 本公開しました。コロナ禍において本学に足を運ばなくても、本学の教育が知ってもらえるようになりました。

（2）高校

①教育・研究

ア）コロナ禍への対応

a ４月から５月末まで、臨時休業としました。

b 臨時休業中、オンライン教育を行いました。

c ６月には、対面授業とオンライン教育を並行して行いました。

イ）感染症防止対策

毎日の健康観察、マスク着用・換気の徹底、アルコール消毒液の設置などを行いました。

ウ）教科学習・授業の充実と学力向上

a 教育顧問による授業観察を実施し、授業改善に努めました。

b 授業アンケートを実施し、わかりやすい授業展開の工夫に努めました。

c 補習や課外授業を実施し、生徒の学力向上に努めました。

d 授業交換を適切に行い、授業確保に努めました。

エ）教員資質の向上

a 校内教員研修を行い、教員資質の向上に努めました。

b 群馬県私立小・中・高協会の研修に参加しました。

オ）学校評価の実施及び公表

学校評価（自己評価）を実施し、生徒・保護者に公表しました。

②進路支援

外部模試による学力の測定、課外授業、学力検討会、志望校検討会、大学入試共通テスト出願説明会、就職説明会、学科研究、進路講演会、職業講話、就職支援、資格取得支援などを実施しました。

③生徒支援

ア）部活動は当初はコロナ禍により活動できませんでしたが、その後は様々な制約のなかで部活動方針に則り活動しました。

イ）学業と部活動の両立を推進しました。

ウ）生徒の主体的な活動を支援しました。

④募集

オンラインでの学校説明会、来場型での学校説明会、中学校訪問、個別相談会、本校入学者・他校入学者へのアンケートなどを実施しました。

⑤関東短期大学廃止に伴う対応

保育士・幼稚園教諭養成機関への進学支援（経済的支援も含む）を実施しました。

（３）人事

①大学教員

本学の教育課程をより体系的なものとするためのカリキュラム編成の検討結果をふまえて、必要となる教員の採用活動を行いました。採用活動にあたっては、求める教員を、①建学の精神、本学の使命・目的、3 つのポリシーに賛同し、その実現に向け行動できる者、②大学での教育の礎となる研究業績あるいは実務経験を有し、教育・研究活動に熱意を持って取り組む者、③学生のコンピテンシーを伸ばすためのアクティブ・ラーニングの実施にあたり、多様なテーマの設定と実践的な教育を行なうことができる優れた能力を持つ者、④本学の組織運営に参画し、さらに、地域や社会との連携活動に積極的に取り組む者と定め、これらの条件に合致しているかについて慎重な審査を行い採用しました。こうした採用活動の結果、当初目標としていたカリキュラム編成とすることができました。

②高校教員

求める教員像①「敬和・温順・質実」という建学の精神、本学の教育目標の実現に向けて努力できる者、②担当する教科に対しての熱意と優れた専門性・指導力を有する者、③生徒と共に活動し、共に成長していける者、に重点を置き教員採用を行いました。

教員の資質向上と教科指導力向上のため、校内研修を行いました。

③職員の採用と人材育成

春の採用活動については、コロナ禍により見送りましたが、人事構成のバランスを保つため中途採用や専門知識を持った人材を確保するための採用活動について検討を始めました。

教育研修については、オンラインを活用している外部の研修会等に参加しました。

（4）施設

コロナ対策として、除菌のための清掃内容や清掃回数の見直し、加湿器や消毒液の設置など安全・安心な教育環境づくりに努めました。

コロナ禍のため予定していた修繕等はできませんでしたが、2021 年度に向けての修繕計画を再度検討しました。

（5）財務

収入については、入学者・在籍者の確保に伴う学納金収入確保に努めるとともに、コロナ禍で世界経済が不透明のなかでリスクに配慮した運用を行い、最終的には多くの配当金を得ました。

支出については、教育研究の質の向上に取り組みながら、効果的な予算執行を通じてコストを削減しました。コロナ禍のもと、中期計画・事業計画で予定していた修繕等の工事の実施は、次年度以降に延期することとなりました。

収支としては、単年度の収支のバランスを示す基本金組入前当年度収支差額は、2 億 56 百万円の収入超過となりました。

Ⅲ. 財務の概要

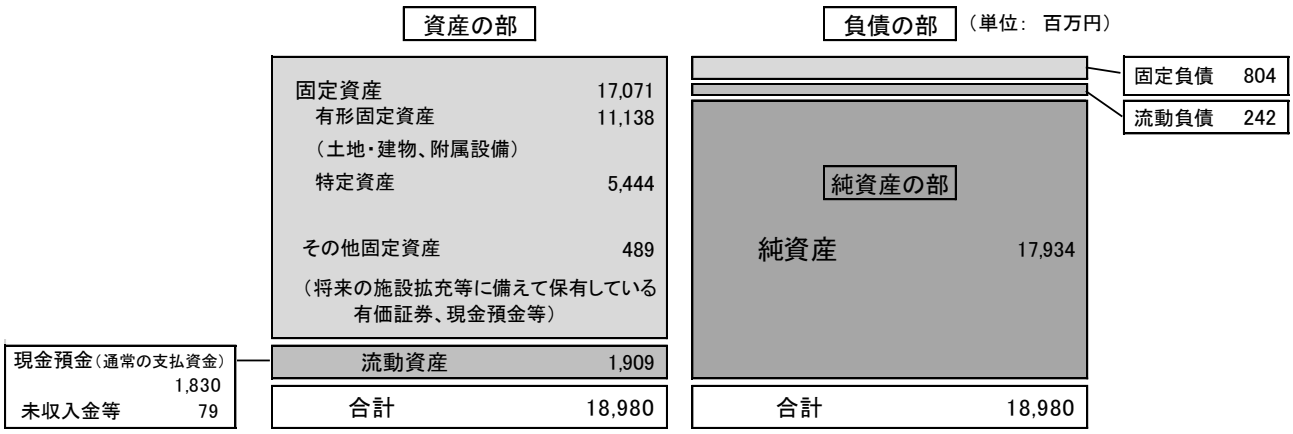
１．決算の概要

（１）貸借対照表関係

①貸借対照表の状況と経年比較

「貸借対照表」は、年度末における財政状況の健全性と学園運営に必要な資産の保有状況や負債状況について表したものです。資産は学校法人に投入された資金がどの様に使われているかを表しており、負債及び自己資金は資産が他人の資金（負債）によって賄われているか、自己資産によって賄われているかを示しています。

ア）2020 年度の状況



・固定資産は自己資金で賄われており、健全な経営が行われています。
・本学園は長期借入金及び短期借入金はありません。
・純資産構成比率は 94.5%と十分高く、健全な財政状態を維持しています。
・運用資産は 72 億 74 百万円であり、十分な支払能力を有しています。

現在の学園の収支状況・財産を家計簿にしてみると

収入			支出		
学納金+手数料+寄付金	給料	969	人件費	生活費	833
補助金	親からの補助	364	教育研究経費	教育費	643
受取利息・配当金	株の配当金	613	管理経費	光熱費・修繕費	276
付随事業収入	パート代	2	資産処分差額+徴収不能額	臨時支出	4
雑収入+その他の特別収入	臨時収入	64			
合計		2,012	合計		1,756

運用資産	7,274
借入金	0

（単位：円）

資　産　の　部			
科　　目	2020年度末	2019年度末	増 減
固定資産	17,071,139,668	17,297,062,464	△ 225,922,796
有形固定資産	11,137,703,576	11,327,714,913	△ 190,011,337
土地	6,195,136,284	6,195,136,284	0
建物	2,053,926,413	2,210,842,960	△ 156,916,547
構築物	66,900,819	86,662,012	△ 19,761,193
教育研究用機器備品	63,052,286	331,002,604	△ 267,950,318
管理用機器備品	703,578,770	451,444,180	252,134,590
図書	2,055,108,998	2,052,626,863	2,482,135
車両	6	10	△ 4
特定資産	5,443,998,784	5,443,998,784	0
第2号基本金引当特定資産	3,810,760,792	3,810,760,792	0
第3号基本金引当特定資産	1,633,237,992	1,633,237,992	0
その他の固定資産	489,437,308	525,348,767	△ 35,911,459
電話加入権	4,932,784	4,932,784	0
ソフトウェア	18,227,448	25,131,552	△ 6,904,104
水利権	443,120,768	470,773,291	△ 27,652,523
長期貸付金	22,706,308	24,061,140	△ 1,354,832
差入保証金	450,000	450,000	0
流動資産	1,909,063,452	1,494,738,226	414,325,226
現金預金	1,829,741,602	1,377,625,214	452,116,388
未収入金	72,660,469	110,707,554	△ 38,047,085
前払金	6,661,381	6,258,445	402,936
立替金	0	147,013	△ 147,013
資産の部合計	18,980,203,120	18,791,800,690	188,402,430

固定資産は、自己資金で賄われており、健全な経営が行われています。

有形固定資産は、前年比1億90百万円減少しました。

特定資産は、預貯金・有価証券で保有しています。

その他固定資産は、前年比36百万円減少しました。

流動資産は、前年比4億14百万円増加しました。

現金預金として保有している支払金額です。

総資産は、189億80百万円となり、前年比1億88百万円増加しました。

（単位：円）

負　債　の　部			
科　　目	2020年度末	2019年度末	増 減
固定負債	803,486,014	823,230,405	△ 19,744,391
長期借入金	0	0	0
長期未払金	33,900,432	54,175,296	△ 20,274,864
退職給与引当金	769,585,582	769,055,109	530,473
流動負債	242,341,944	290,594,373	△ 48,252,429
短期借入金	0	0	0
前受金	116,369,500	139,403,000	△ 23,033,500
預り金	61,543,738	82,366,269	△ 20,822,531
未払金	64,428,706	68,825,104	△ 4,396,398
負債の部合計	1,045,827,958	1,113,824,778	△ 67,996,820
純　資　産　の　部			
科　　目	2020年度末	2019年度末	増 減
基本金	26,894,545,972	26,890,371,930	4,174,042
第1号基本金	21,301,547,188	21,297,373,146	4,174,042
第2号基本金	3,810,760,792	3,810,760,792	0
第3号基本金	1,633,237,992	1,633,237,992	0
第4号基本金	149,000,000	149,000,000	0
繰越収支差額			
翌年度繰越収支差額	△ 8,960,170,810	△ 9,212,396,018	252,225,208
純資産の部合計	17,934,375,162	17,677,975,912	256,399,250
負債の部、純資産の部合計	18,980,203,120	18,791,800,690	188,402,430

借入金は、長期・短期ともございません。

前受金等の減少により、前年比48百万円減少しました。

負債合計は、10億46百万円となり、前年比68百万円減少しました。

純資産は、179億34百万円となりました。

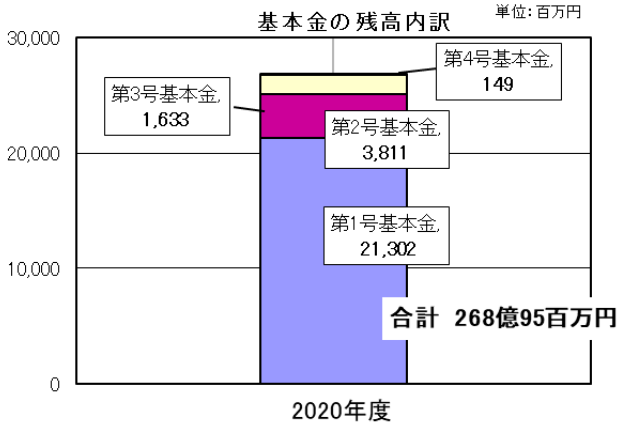
基本金
　学校法人が諸活動の計画に基づき、必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして事業活動収入から組入れた金額

第1号基本金
　学校の設立や規模の拡大若しくは、教育の充実向上のために取得した固定資産の額

第2号基本金
　将来取得する固定資産に充てる金銭その他の資産の額

第3号基本金
　基金として継続的に保持し、かつ運用する金銭その他の資産の額

第4号基本金
　恒常的に保持すべき資金の額



イ）経年比較

（単位：円）

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産	18,208,428,425	17,991,246,921	17,916,778,403	17,297,062,464	17,071,139,668
流動資産	1,512,069,957	1,553,506,698	1,038,550,356	1,494,738,226	1,909,063,452
資産の部合計	19,720,498,382	19,544,753,619	18,955,328,759	18,791,800,690	18,980,203,120
固定負債	848,900,638	847,054,075	816,771,126	823,230,405	803,486,014
流動負債	426,457,153	468,900,923	358,181,544	290,594,373	242,341,944
負債の部合計	1,275,357,791	1,315,954,998	1,174,952,670	1,113,824,778	1,045,827,958
基本金	27,448,864,331	27,517,597,347	27,558,259,034	26,890,371,930	26,894,545,972
繰越収支差額	△ 9,003,723,740	△ 9,288,798,726	△ 9,777,882,945	△ 9,212,396,018	△ 8,960,170,810
純資産の部合計	18,445,140,591	18,228,798,621	17,780,376,089	17,677,975,912	17,934,375,162
負債及び純資産の部合計	19,720,498,382	19,544,753,619	18,955,328,759	18,791,800,690	18,980,203,120

②財務比率の経年比較

（単位：%）

比率名	算 式	評価	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
純資産構成比率	純資産 / 総負債+純資産	↑	93.5	93.3	93.8	94.1	94.5
運用資産余裕比率	運用資産-外部負債 / 経常支出	↑	292.5	308.2	325.4	326.3	408.7
流動比率	流動資産 / 流動負債	↑	354.6	331.3	290.0	514.4	787.8
総負債比率	総負債 / 総資産	↓	6.5	6.7	6.2	5.9	5.5
前受金保有率	現金預金 / 前受金	↑	633.3	633.0	703.3	988.2	1572.4
基本金比率	基本金 / 基本金要組入額	↑	99.7	99.9	99.8	99.7	99.8
積立率	運用資産 / 要積立額	↑	46.2	45.6	42.8	43.3	45.6

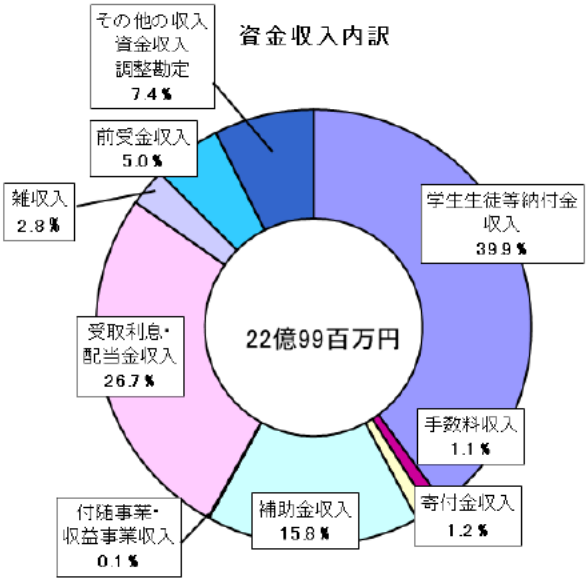
（注）評価の欄は、「↑：高い値が良い」「↓：低い値が良い」「－：どちらともいえない」を表しています。

（2）資金収支計算書関係

①資金収支計算書の状況と経年比較

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出内容を明らかにし、かつ支払資金（現金及びいつでも引出すことができる預貯金）の収入・支出の顛末を明らかにするものです。

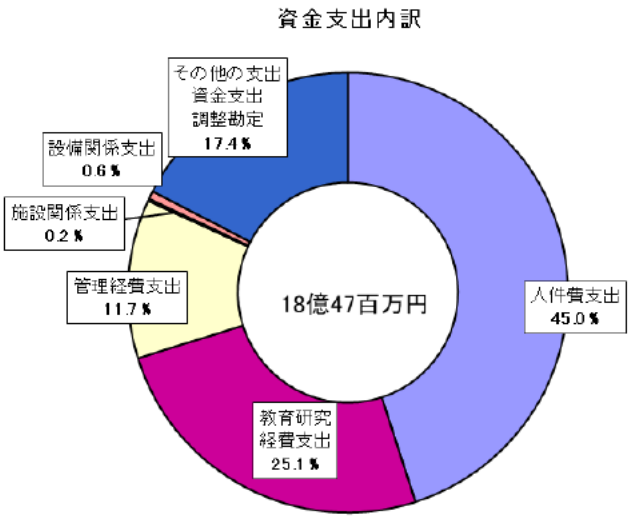
ア）2020 年度の状況



資金収入は、
① 授業料・施設費・入学金などの学生・生徒から納入された収入（学生生徒等納付金収入）
② 入学検定料や証明書発行手数料などの収入（手数料収入）
③ 国や地方公共団体などから交付される補助金（補助金収入）
④ 食堂の運営・外部から委託を受けることなどによる収入（付随事業・収益事業収入）
⑤ 預貯金の受取利息や有価証券の配当金の収入（受取利息・配当金収入）
⑥ 当年度に納入された翌年度分の授業料などの収入（前受金収入）
が含まれます。

その他の収入は、「前期末未収入金収入」、「預り金受入収入」などの収入です。

資金収入調整勘定には
期末未収入金（当年度中に受け取るべき収入のうち、入金が翌年度以降の収入）
前期末前受金（当年度中に受け取るべき収入のうち、前年度までに入金済みの収入）
などが含まれます。



資金支出は、
① 教員・職員などに対する支出（人件費支出）
② 教育・研究活動や学生・生徒の学習支援・課外活動支援の支出（教育研究経費支出）
③ 総務・人事・経理業務や学生・生徒募集活動など、教育・研究活動以外の活動の支出（管理経費支出）
④ 建物、構築物などの支出（施設関係支出）
⑤ 教育研究用機器備品、管理用機器備品、図書、車両などの支出（設備関係支出）
が含まれます。

その他の支出は、「預り金支払支出」、「前期末未払金支払支出」などの支出です。

資金支出調整勘定には
期末未払金　（当年度中に支払うべき支出のうち、翌年度以降の支出）
前期末前払金（当年度中に支払うべき支出のうち、前年度までに支払済みの支出）
などが含まれます。

（単位：円）

収 入 の 部			
科　　目	2020年度		
	予算額	決算額	差　異
学生生徒等納付金収入	900,308,000	916,756,900	△ 16,448,900
手数料収入	36,200,000	25,026,322	11,173,678
寄付金収入	0	26,565,859	△ 26,565,859
補助金収入	367,500,000	364,579,878	2,920,122
国庫補助金収入	67,500,000	84,917,800	△ 17,417,800
地方公共団体補助金収入	300,000,000	279,662,078	20,337,922
資産売却収入	0	277,280	△ 277,280
付随事業・収益事業収入	17,700,000	2,232,305	15,467,695
受取利息・配当金収入	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
雑収入	61,025,000	63,869,194	△ 2,844,194
前受金収入	159,692,000	116,369,500	43,322,500
その他の収入	440,707,554	387,379,732	53,327,822
資金収入調整勘定	△ 195,628,000	△ 215,878,781	20,250,781
当年度収入合計	2,399,504,554	2,299,830,565	99,673,989
前年度繰越支払資金	1,377,625,214	1,377,625,214	
収入の部合計	3,777,129,768	3,677,455,779	99,673,989

学生生徒等納付金収入は、予算を16百万円上回りました。

補助金収入は、予算を3百万円下回りました。

2021年度入学者の入学金・授業料収入等であり、予算を43百万円下回りました。

結果として、資金収入合計は予算を1億円下回りました。

（単位：円）

支 出 の 部			
科　　目	2020年度		
	予算額	決算額	差　異
人件費支出	857,136,000	832,107,832	25,028,168
教育研究経費支出	598,693,000	463,750,381	134,942,619
管理経費支出	300,120,000	216,413,292	83,706,708
施設関係支出	7,500,000	2,717,000	4,783,000
設備関係支出	12,545,000	11,658,610	886,390
その他の支出	425,735,000	370,606,965	55,128,035
予備費	40,000,000		40,000,000
資金支出調整勘定	△ 75,033,025	△ 49,539,903	△ 25,493,122
当年度支出合計	2,126,695,975	1,847,714,177	318,981,798
翌年度繰越支払資金	1,610,433,793	1,829,741,602	△ 219,307,809
支出の部合計	3,777,129,768	3,677,455,779	99,673,989

教育研究活動を積極的に支援すると同時に効果的な執行に努め予算を1億35百万円下回りました。

予算の段階で厳しく査定し、抑制方針で執行した結果、予算を84百万円下回りました。

施設・設備関係支出は予算を5百万円下回りました。

結果として、資金支出合計は予算を3億19百万円下回りました。

イ）経年比較

（単位：円）

収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金収入	1,249,076,990	1,173,676,740	1,162,103,490	932,427,660	916,756,900
手数料収入	36,355,050	35,399,410	31,561,980	31,118,370	25,026,322
寄付金収入	30,000,000	1,316,814	700,000	4,269,303	26,565,859
補助金収入	442,614,978	439,418,806	407,224,930	393,709,510	364,579,878
資産売却収入	13,500,000	0	2,847,021	0	277,280
付随事業・収益事業収入	13,716,878	14,855,612	19,695,450	18,460,927	2,232,305
受取利息・配当金収入	137,566,060	336,848,710	332,110	463,478,766	612,652,376
雑収入	166,095,514	124,255,897	15,930,177	110,127,558	63,869,194
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	225,310,500	227,286,500	144,537,500	139,403,000	116,369,500
その他の収入	473,511,429	453,044,469	455,159,142	887,646,075	387,379,732
資金収入調整勘定	△ 330,916,974	△ 337,302,883	△ 245,624,571	△ 258,475,528	△ 215,878,781
前年度繰越支払資金	2,279,963,104	1,426,991,130	1,438,830,867	1,016,568,589	1,377,625,214
収入の部合計	4,736,793,529	3,895,791,205	3,433,298,096	3,738,734,230	3,677,455,779

（単位：円）

支出の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費支出	1,263,202,175	1,138,881,472	1,040,448,735	1,040,695,992	832,107,832
教育研究経費支出	692,532,890	668,033,673	611,644,728	541,055,724	463,750,381
管理経費支出	276,482,041	283,395,351	247,654,179	232,458,015	216,413,292
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	176,041,828	25,233,012	99,067,025	76,121,978	2,717,000
設備関係支出	509,566,235	5,876,129	77,036,805	55,425,735	11,658,610
その他の支出	509,624,392	499,290,069	515,694,732	505,981,329	370,606,965
資金支出調整勘定	△ 117,647,162	△ 163,749,368	△ 174,816,697	△ 90,629,757	△ 49,539,903
翌年度繰越支払資金	1,426,991,130	1,438,830,867	1,016,568,589	1,377,625,214	1,829,741,602
支出の部合計	4,736,793,529	3,895,791,205	3,433,298,096	3,738,734,230	3,677,455,779

②活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

「活動区分資金収支計算書」は、資金収支計算書を活動区分ごとに分類し、活動ごとの収支状況を明らかにするものです。

ア）2020 年度の状況

（単位：円）

		科　　目	金　額
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	916,756,900
		手数料収入	25,026,322
		一般寄付金収入	26,565,859
		経常費等補助金収入	364,579,878
		付随事業収入	2,232,305
		雑収入	63,869,194
		教育活動資金収入計	1,399,030,458
	支出	人件費支出	832,107,832
		教育研究経費支出	463,750,381
		管理経費支出	216,413,292
		教育活動資金支出計	1,512,271,505
	差引		△ 113,241,047
	調整勘定等		△ 19,487,814
	教育活動資金収支差額		△ 132,728,861
施設整備等活動による資金収支		科　　目	金　額
	収入	施設設備売却収入	277,280
		施設整備等活動資金収入計	277,280
	支出	施設関係支出	2,717,000
		設備関係支出	11,658,610
		施設整備等活動資金支出計	14,375,610
	差引		△ 14,098,330
	調整勘定等		5,614,201
	施設整備等活動資金収支差額		△ 8,484,129
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）			△ 141,212,990
その他の活動による資金収支		科　　目	金　額
	収入	借入金等収入	0
		立替金回収収入	293,961
		仮払金回収収入	1,569,096
		貸付金回収収入	1,354,832
		預り金受入収入	273,454,289
		小計	276,672,178
		受取利息・配当金収入	612,652,376
		その他の活動資金収入計	889,324,554
		科　　目	金　額
	支出	借入金等返済支出	0
		預り金支払支出	294,276,820
		立替金支払支出	146,948
		仮払金支払支出	1,569,096
		小計	295,992,864
		借入金等利息支出	0
		その他の活動資金支出計	295,992,864
	差引		593,331,690
	調整勘定等		△ 2,312
	その他の活動資金収支差額		593,329,378
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）			452,116,388
前年度繰越支払資金			1,377,625,214
翌年度繰越支払資金			1,829,741,602

教育活動における資金収支差額は、1億33百万円の支出超過となりました。

教育活動と施設整備等活動を合わせた資金収支差額は、1億41百万円の支出超過となりました。

現金預金は、4億52百万円増加しました。

イ）経年比較

（単位：円）

科目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	1,907,859,410	1,777,662,279	1,637,216,027	1,463,552,328	1,399,030,458
	教育活動資金支出計	2,232,217,106	2,090,310,496	1,899,747,642	1,814,209,731	1,512,271,505
	差引	△ 324,357,696	△ 312,648,217	△ 262,531,615	△ 350,657,403	△ 113,241,047
	調整勘定等	△ 80,870,325	68,612,317	△ 19,886,503	△ 159,659,162	△ 19,487,814
	教育活動資金収支差額	△ 405,228,021	△ 244,035,900	△ 282,418,118	△ 510,316,565	△ 132,728,861
施設整備等活動による資金収支						
	施設整備等活動資金収入計	30,000,000	11,261,000	2,847,021	226,561,000	277,280
	施設整備等活動資金支出計	685,608,063	31,109,141	176,103,830	131,547,713	14,375,610
	差引	△ 655,608,063	△ 19,848,141	△ 173,256,809	95,013,287	△ 14,098,330
	調整勘定等	48,376,008	△ 61,872,941	38,281,864	3,420,853	5,614,201
	施設整備等活動資金収支差額	△ 607,232,055	△ 81,721,082	△ 134,974,945	98,434,140	△ 8,484,129
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）		△ 1,012,460,076	△ 325,756,982	△ 417,393,063	△ 411,882,425	△ 141,212,990
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	592,986,489	714,125,587	344,930,639	1,134,496,955	889,324,554
	その他の活動資金支出計	433,498,387	376,528,868	349,799,854	361,557,905	295,992,864
	差引	159,488,102	337,596,719	△ 4,869,215	772,939,050	593,331,690
	調整勘定等	0	0	0	0	△ 2,312
	その他の活動資金収支差額	159,488,102	337,596,719	△ 4,869,215	772,939,050	593,329,378
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）		△ 852,971,974	11,839,737	△ 422,262,278	361,056,625	452,116,388
前年度繰越支払資金		2,279,963,104	1,426,991,130	1,438,830,867	1,016,568,589	1,377,625,214
翌年度繰越支払資金		1,426,991,130	1,438,830,867	1,016,568,589	1,377,625,214	1,829,741,602

③財務比率の経年比較

（単位：%）

比率名	算 式	評価	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動資金収支差額比率	教育活動資金収支差額 / 教育活動資金収入計	プラスが望ましい	△21.2	△13.7	△17.2%	△34.9%	△9.5

（3）事業活動収支計算書関係

①事業活動収支計算書の状況と経年比較

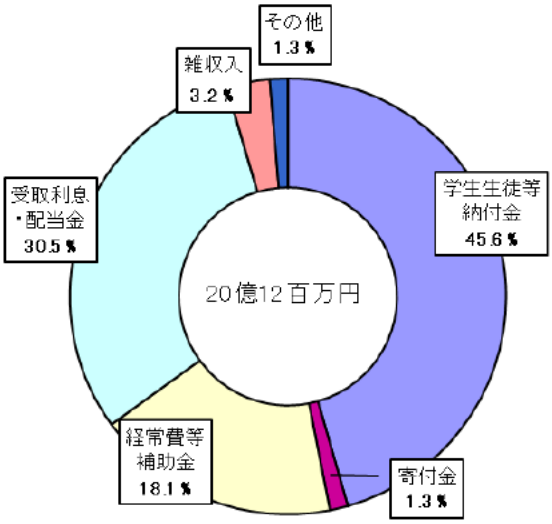
「事業活動収支計算書」は、従来の「消費収支計算書」に当たり、当該会計年度の諸活動に対応するすべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡状況とその内容を明らかにし、学校法人の経営状況が健全であるかどうかを示すもので、いわば企業会計の損益計算書にあたるものです。

ア）2020 年度の状況

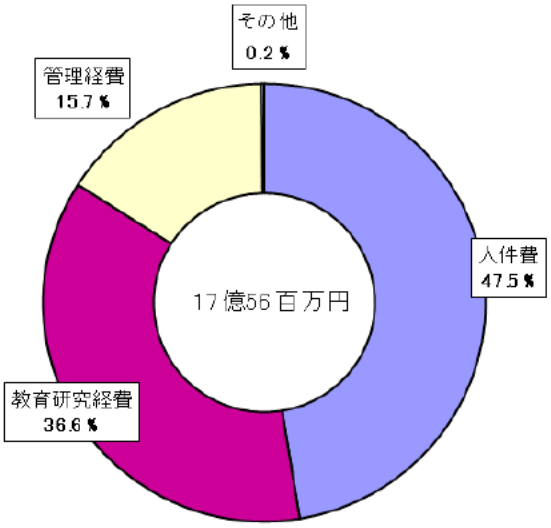
事業活動収入は、従来の「消費収支計算書」における帰属収入に当たり、借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた学校法人における正味の収入のことです。

事業活動支出は、従来の「消費収支計算書」における消費支出に当たり、キャッシュアウトしない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用のことをいいます。

事業活動収入構成比率



事業活動支出構成比率



（単位：円）

		科　　目	2020年度		
			予算額	決算額	差　異
教育活動収支	収入	学生生徒等納付金	900,308,000	916,756,900	△ 16,448,900
		手数料	36,200,000	25,026,322	11,173,678
		寄付金	0	26,847,294	△ 26,847,294
		経常費等補助金	367,500,000	364,579,878	2,920,122
		国庫補助金	67,500,000	84,917,800	△ 17,417,800
		地方公共団体補助金	300,000,000	279,662,078	20,337,922
		付随事業収入	17,700,000	2,232,305	15,467,695
		雑収入	61,025,000	63,869,194	△ 2,844,194
		教育活動収入計	1,382,733,000	1,399,311,893	△ 16,578,893
	支出	人件費	840,221,000	832,638,305	7,582,695
		教育研究経費	789,193,000	643,613,066	145,579,934
		（うち減価償却費）	(190,500,000)	(179,598,685)	(10,901,315)
		管理経費	365,120,000	275,775,607	89,344,393
		（うち減価償却費）	(65,000,000)	(59,362,315)	(5,637,685)
		徴収不能額	1,000,000	3,815,312	△ 2,815,312
		教育活動支出計	1,995,534,000	1,755,842,290	239,691,710
		教育活動収支差額	△ 612,801,000	△ 356,530,397	△ 256,270,603
		科　　目	予算額	決算額	差　異
教育活動外収支	収入	受取利息・配当金	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
	支出	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	0	0	0
		教育活動外収支差額	612,000,000	612,652,376	△ 652,376
		経常収支差額	△ 801,000	256,121,979	△ 256,922,979
		科　　目	予算額	決算額	差　異
特別収支	収入	資産売却差額	0	277,280	△ 277,280
		その他の特別収入	0	0	0
		特別収入計	0	277,280	△ 277,280
	支出	資産処分差額	0	9	△ 9
		その他の特別支出	0	0	0
		特別支出計	0	9	△ 9
		特別収支差額	0	277,271	△ 277,271
		予備費	40,000,000		40,000,000
		基本金組入前当年度収支差額	△ 40,801,000	256,399,250	△ 297,200,250
		基本金組入額合計	△ 30,000,000	△ 4,174,042	△ 25,825,958
		当年度収支差額	△ 70,801,000	252,225,208	△ 323,026,208
		前年度繰越収支差額	△ 9,212,396,000	△ 9,212,396,018	18
		翌年度繰越収支差額	△ 9,283,197,000	△ 8,960,170,810	△ 323,026,190
		事業活動収入計	1,994,733,000	2,012,241,549	△ 17,508,549
		事業活動支出計	2,035,534,000	1,755,842,299	279,691,701

大学について、国から85百万円の補助金収入がありました。

高校について、県から2億80百万円の補助金収入がありました。

減価償却とは、固定資産の価値の減少を経費として計上する会計上の処理です。したがって、実際の支出を伴いません。

教職員の人件費、教育研究活動及び法人の運営に必要な諸経費です。17億56百万円となり、予算を2億40百万円下回りました。

事業活動収入は、従来の「消費収支計算書」における帰属収入に当たり、借入金収入や前受金収入等の負債となる収入を除いた学校法人における正味の収入のことです。
20億12百万円となり、予算を17百万円上回りました。

事業活動支出は、従来の「消費収支計算書」における消費支出に当たり、キャッシュアウトしない減価償却費や資産処分差額等も含まれ、学校法人の正味の費用のことです。
17億56百万円となり、予算を2億80百万円下回りました。

イ）経年比較

（単位：円）

科目		2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,249,076,990	1,173,676,740	1,162,103,490	932,427,660	916,756,900
	手数料	36,355,050	35,399,410	31,561,980	31,118,370	25,026,322
	寄付金	914,028	1,796,503	1,012,029	4,565,220	26,847,294
	経常費等補助金	442,614,978	428,157,806	407,224,930	367,148,510	364,579,878
	付随事業収入	13,716,878	14,855,612	19,695,450	18,460,927	2,232,305
	雑収入	166,095,516	124,255,899	15,930,179	110,127,562	63,869,194
	教育活動収入計	1,908,773,440	1,778,141,970	1,637,528,058	1,463,848,249	1,399,311,893
	事業活動支出の部					
	人件費	1,257,906,975	1,143,137,773	978,791,066	1,029,479,079	832,638,305
	教育研究経費	897,793,119	853,321,767	800,723,432	730,539,639	643,613,066
	管理経費	316,575,814	343,729,139	303,645,332	289,538,963	275,775,607
	徴収不能額等	2,960,882	1,431,770	1,710,185	3,230,474	3,815,312
	教育活動支出計	2,475,236,790	2,341,620,449	2,084,870,015	2,052,788,155	1,755,842,290
	教育活動収支差額	△ 566,463,350	△ 563,478,479	△ 447,341,957	△ 588,939,906	△ 356,530,397
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	137,566,060	336,848,710	332,110	463,478,766	612,652,376
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	137,566,060	336,848,710	332,110	463,478,766	612,652,376
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	0	0	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	0	0
	教育活動外収支差額	137,566,060	336,848,710	332,110	463,478,766	612,652,376
経常収支差額		△ 428,897,290	△ 226,629,769	△ 447,009,847	△ 125,461,140	256,121,979
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	453,712	0	277,280
	その他の特別収入	30,000,000	11,261,000	0	26,561,000	0
	特別収入計	30,000,000	11,261,000	453,712	26,561,000	277,280
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	1,430,881	973,201	1,866,397	3,500,037	9
	その他の特別支出	0	0	0	0	0
	特別支出計	1,430,881	973,201	1,866,397	3,500,037	9
	特別収支差額	28,569,119	10,287,799	△ 1,412,685	23,060,963	277,271
基本金組入前当年度収支差額		△ 400,328,171	△ 216,341,970	△ 448,422,532	△ 102,400,177	256,399,250
基本金組入額合計		△ 534,734,232	△ 68,733,016	△ 40,661,687	0	△ 4,174,042
当年度収支差額		△ 935,062,403	△ 285,074,986	△ 489,084,219	△ 102,400,177	252,225,208
前年度繰越収支差額		△ 8,318,661,337	△ 9,003,723,740	△ 9,288,798,726	△ 9,777,882,945	△ 9,212,396,018
基本金取崩額		250,000,000	0	0	667,887,104	0
翌年度繰越収支差額		△ 9,003,723,740	△ 9,288,798,726	△ 9,777,882,945	△ 9,212,396,018	△ 8,960,170,810

（参考）

事業活動収入計	2,076,339,500	2,126,251,680	1,638,313,880	1,953,888,015	2,012,241,549
事業活動支出計	2,476,667,671	2,342,593,650	2,086,736,412	2,056,288,192	1,755,842,299

②財務比率の経年比較

（単位：%）

比率名	算 式	評価	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費比率	人件費 / 経常収入	↓	61.5	54.0	59.8	53.4	41.4
教育研究経費比率	教育研究経費 / 経常収入	↑	43.9	40.3	48.9	37.9	32.0
管理経費比率	管理経費 / 経常収入	↓	15.5	16.3	18.5	15.0	13.7
事業活動収支差額比率	基本金組入前当年度収支差額 / 事業活動収入計	↑	△19.3	△10.2	△27.4	△5.2	12.7
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金 / 経常収入	―	61.0	55.5	71.0	48.4	45.6
経常収支差額比率	経常収支差額 / 経常収入	↑	△21.0	△10.7	△27.3	△6.5	12.7

（注）評価の欄は、「↑：高い値が良い」「↓：低い値が良い」「ー：どちらともいえない」を表しています。

２．その他

（１）有価証券の状況

種　類	勘定科目	当年度(令和3年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	施設拡充引当特定資産			
	有価証券(投資信託)			
	FDグローバルBF(分配型)	3,800,200,000 円	3,732,034,073 円	△ 68,165,927円
	FDグローバルBF(分配型)	1,500,000,000 円	1,480,950,000 円	△ 19,050,000円
	合計	5,300,200,000 円	5,212,984,073 円	△ 87,215,927円
(うち満期保有目的の債券)		(0円)	(0円)	(0円)
時価のない有価証券	(株)農のちから	0円		
	(株)百の姓	0円		
	合計	0円		

（２）借入金の状況

該当なし

（３）学校債の状況

該当なし

（４）寄付金の状況

寄付金の種類	寄付者	金額
一般寄付金	短大後援会	26,463,830 円
	短大同窓会	102,029 円

（５）補助金の状況

該当なし

（６）収益事業の状況

該当なし

（7）関連当事者等との取引の状況

記載の対象となる取引はありません。

（8）学校法人間財務取引

記載の対象となる取引はありません。

３．経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

経営状況の分析において、単年度の収支のバランスを示す基本金組入前当年度収支差額は重要です。2020 年度は、2 億 56 百万円の収入超過となりました。

土地・建物等の固定資産は、長期的な資産のため自己資金で 100%賄われていることが理想ですが、本学は自己資金で賄われており、安定した経営が行われているといえます。

また、本学園は長期借入金及び短期借入金はございません。

貸借対照表関係の比率で見ますと、純資産構成比率は 94.5%と十分高く、運用資産は 72 億 74 百万円あり、健全な財務状態を維持しています。

さらに短期的な支払能力を示す流動比率は、流動資産が流動負債の 200%以上あると優良であると言われるなか、本学は 787.8%であり、比率からして充分な支払い能力があるといえます。負債の内訳は退職給与引当金や前受金、預り金等であり、借入金はなく、総負債比率は 5.5%と低く健全であるといえます。

経営上の成果は、コスト意識を持った取り組みをしたことで効果的な予算執行ができたこと、コロナ禍で世界経済が不透明のなかでリスクに配慮した運用を行い、最終的には多くの配当金を得たことです。

経営上の課題は、毎年度の基本金組入前当年度収支差額の支出超過の額を、改善していくことです。コロナ禍により、中期計画・事業計画で予定していた修繕等の工事の実施は、次年度以降に延期することとなり、実施時期の見直しにあわせ、中期財務計画も見直しましたが、できるだけ支出超過を平準化していくことが必要です。

今後の方針・対応方策は、中期計画に基づく財務運営を行い、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理することです。今後も入学者・在籍者の増加を図るとともに、教育研究環境の適切な整備に必要な支出をしながらも、固定的な経費については内容を精査し、削減に努めていきます。経営の永続性を担保するため、基本金組入前当年度収支差額の均衡を目指していきます。

2020 年度

監 査 報 告 書（監 事）

（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）

学校法人　　関東学園

監　査　報　告　書

令和３年５月２７日

学校法人　関東学園
　　理事会　　御　中
　　評議員会　　御　中

学校法人　関東学園

監事　　平賀　正治

監事　　川内　克忠

私たち監事は、私立学校法第 37 条第 3 項及び学校法人関東学園寄附行為第 9 条の規定に基づき、学校法人関東学園の令和 2 年度（令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日まで）の学校法人の業務及び財産の状況を監査いたしました。その結果につき下記のとおり報告いたします。

1、監査方法の概要

私たち監事は監査に当たり、理事会及び評議員会に出席するほか、重要な決裁書類等を閲覧するとともに、会計監査法人（辰巳監査法人）と連携をとり、計算書類について検討するなど、必要と思われる監査を実施いたしました。

2、監査の結果

(1) 学校法人関東学園の業務の執行に関し不正の行為はなく、かつ法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

(2) 資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む）、事業活動収支計算書及び貸借対照表（固定資産明細表、基本金明細表）及び財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、その収支及び財産の状況を正しく示しているものと認めます。

以　上

2020 年度

監 査 報 告 書（独 立 監 査 人）

（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日）

学校法人　　関東学園

独立監査人の監査報告書

2021 年５月 31 日

学校法人関東学園
理事会　御中

辰 巳 監 査 法 人
指定社員
業務執行社員　公認会計士　辰巳　正　　㊞
指定社員
業務執行社員　公認会計士　竹内　良昌　㊞

監査意見

当監査法人は、私立学校振興助成法第 14 条第 3 項の規定に基づく監査報告を行うため、平成 27 年 3 月 30 日付け文部科学省告示第 73 号に基づき、学校法人関東学園の 2020 年度（2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日まで）の計算書類、すなわち、資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠して、学校法人関東学園の 2021 年 3 月 31 日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、学校法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

計算書類に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類を作成するに当たり、理事者は、継続法人の前提に基づき計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、継続法人に関する事項を記載する必要があると判断した場合には、当該事項を記載する。

監事の責任は、学校法人の財務報告プロセスの整備及び運用における理事の業務執行の状況を監視することにある。

計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- 計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- 理事者が継続法人を前提として計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続法人の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続法人の前提に関する注記がなされている場合は、監査報告書において計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類の注記事項が適切でない場合は、計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した

監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、学校法人は継続法人として存続できなくなる可能性がある。

- 計算書類の表示及び注記事項が、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類の表示、構成及び内容、並びに計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

利害関係

学校法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上